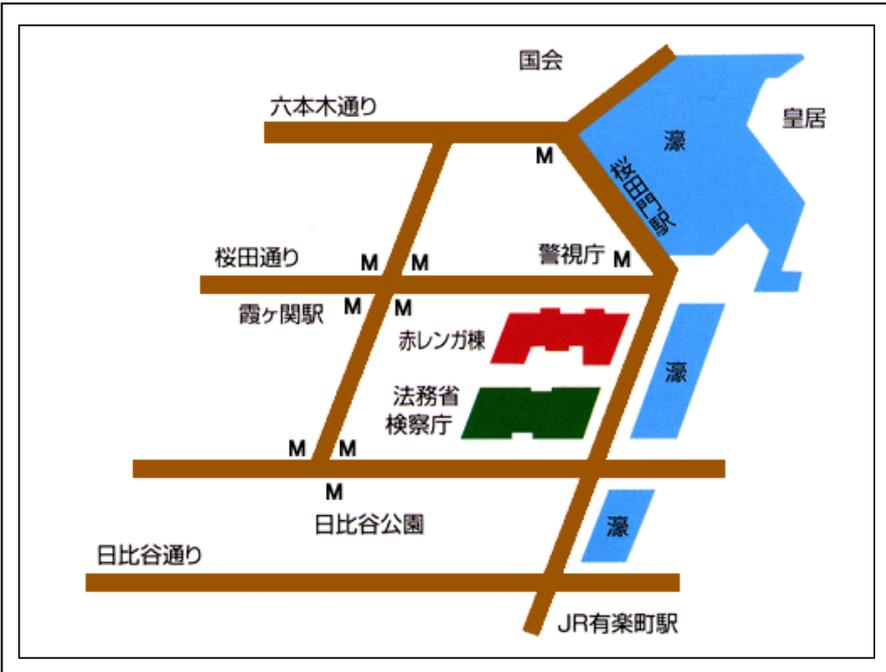


## 観光社会資本の事例

テーマ	霞が関に残る歴史的建築物 中央合同庁舎第6号館赤レンガ棟		
【施設の状況写真】			
			
<p>1895年(明治28年)ドイツ人のヘルマン・エンデとヴィルヘルム・ベックマン設計(実施設計は河合浩蔵)により旧司法省庁舎として完成しました。</p>		<p>1994(平成6年)外観を創建当時の姿に復原し、法務総合研究所及び法務図書館として再生・活用しています。</p>	
【施設の利用写真】			
			
<p>(法務省HPより)</p>		<p>(法務省HPより)</p>	
<p>法務史料展示室は、一枚の写真(日本建築学会図書館所蔵)を基に推定復原された部屋です。 赤レンガ棟の創建当時は、司法大臣官舎大食堂であったといわれています。 ここには、法務史料などが展示されています。</p>		<p>メッセージギャラリーには、建築史料と「日本司法支援センター」及び「裁判員制度」に関する広報・啓発資料などが展示されています。 この部屋は、平成2年6月まで大臣室として使用されていました。</p>	
【観光資源としての利用状況】			
<p>本格的なドイツ・ネオバロック様式の外観に特徴があり、都市の景観上貴重で歴史的価値が高いため、1994年(平成6年)12月27日に重要文化財の指定を受けました。</p>			
<p>近代的建築物が立ち並ぶ霞が関の官庁街にあって、明治時代の趣を残すれんが造りの外観はひと際美しく映え、東京駅から国会議事堂へつながる散策コース上の見所のひとつとなっています。</p>			
<p>現在、赤レンガ棟内の旧司法大臣官舎大食堂などは、「司法の近代化」と「建築の近代化」に関する史料等を展示した法務史料展示室として公開されています。</p>			

テーマ	霞が関に残る歴史的建築物中央合同庁舎第6号館赤レンガ棟
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 中央合同庁舎第6号館 赤レンガ棟</p> <p>所在地 東京都千代田区霞が関 1-1-1</p> <p>事業名 官庁営繕事業</p> <p>事業主体 国</p> <p>事業期間 明治28年(完成)、平成6年(保存活用整備)</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>この建物は、明治政府が招聘したドイツ人建築家ヘルマン・エンデとヴィルヘルム・ベックマンの設計により実施設計・工事監理には河合浩蔵が参画し、1895年(明治28年)に旧司法省庁舎として完成しました。</p> <p>その後、1923年(大正12年)の関東大震災では、れんが壁が鉄材で補強されていたため、ほとんど被害を受けませんでした。1945年(昭和20年)の東京大空襲により、れんが壁を残して焼失しました。そのため、屋根を天然スレートから瓦にするなどの改修工事が行われ、1951年(昭和26年)法務省本館として利用されるようになりました。</p> <p>中央合同庁舎第6号館の整備に伴い、村松貞次郎、堀内正昭両氏の監修のもと建設大臣官房官庁営繕部により、1994年(平成6年)外観が創建時の姿に復原され、法務総合研究所及び法務図書館として活用されています。</p>	
<p>【位置図】</p>  <p>(法務省ホームページより)</p>	
<p>【関連ホームページ】法務省 <a href="http://www.moj.go.jp/">http://www.moj.go.jp/</a></p>	